

生きていればこそ！



写真は長崎のローカル番組、NBC「あっぷる」をスタジオで撮影したもの。
ゲストとして招待された右端の女の子は、戸畑心（17）、
長崎市内の小学校を卒業して、モデルを志して単身上京。

その心（こころ）と太田東西は昔から知り合いなのです。
この日も自称“長崎のマネージャー”として、午後から嫁さんに薬局を任せ
“スタジオ入り”したのでした（笑）

薬局の待合室に貼ってある
着物の宣伝ポスター。
この子が、戸畑心です。



上京して5年。
少しずつ仕事もいただくようになり
雑誌のモデル、テレビのCM、そして
NHK朝ドラの「ひよっこ」に
ちょい役で出演してたり、
映画のヒロインに抜擢されたりと
女優としても頑張っているようです。

その心は、次男坊の同級生の妹でした。
その同級生が、それはそれは勉強ができなくて
私が仕事を終えた後、勉強をみてあげていました。
すると、同じく“できない友達”がどんどん増えて
ちょっとした学習塾になりました。



右の写真は、今から8年前。
いよいよ明日が高校入試という夜。

塾長自ら学生服を着て、生徒らに
フレ~~~~フレ~~~~と
応援のエールを送っている模様です。
おかげで全員、無事に高校に進学しました。

高校生になっても、ちょくちょく薬局に顔出しに来ていました。
しかし、その2年後、悲劇が起きました・・・

バイク事故で逝去。
享年16才。あまりにも早すぎる死でした。

兄が亡くなった後、亡くなった兄に背中を押されているかのように、今度は妹たちが薬局に顔を出すようになりました。

右は小学校の卒業式の帰りに撮った写真。当時から、小学生とは思えない比類ないスタイルと輝きを発していました。



小学校を卒業してすぐに
地元を親元を離れて東京を目指す！

小学校高学年になると自立心が芽生え、親への反抗が目立つ頃とは言え
実際、親元を離れて生活できる子どもはそうそういないでしょう。

寂しくはないのか？
家族と離れて生活することは、不安で寂しいに決まっています。

では、なぜできるのか？
「なりたい！」という強い夢が、希望があるからでしょう。

心の場合、「モデルになりたい！」「なってみせる！」
その気持ちが強いから、行動に移せたのでしょう。

「うちの子は、全然勉強しません。やる気がありません。ダラダラしてばかりです」
そんなお母さんの愚痴をよく耳にしますが、それはお子さんの脳みそが足りない、
いわゆる“ノータリン”だからではないですよ！

何のために勉強するのか？
勉強する目的が明確ではないから、やる気が起きないのです。

「先々職業の選択肢をたくさん持つために、今、しっかり勉強するのよ！」
確かにそうですが、そう理屈を言われて子どもは納得するのでしょうか？
目先のこと（成績、偏差値）に捉われて、その子の個性や長所を上手に
伸ばそうとする教育が、学校でも家庭でもできていない気がします。

教師や親が堅実過ぎて、子どもに夢のある話を語れていない。
それは何よりも、大人が自分の人生を楽しめていないせいかもしれません。

当日、NBCのスタジオには心とお母さんと3人で向かいました。
車中、お母さんに尋ねてみました。

「しかし、いくら心さんに強い夢と希望があるとしても、娘はまだ小学校を卒業したばかり。よくお子さんを手放せましたね」

「親戚から周りから、みんなに反対されました。子どもの言いなりになって甘過ぎる！常識では考えられない！親の見識を疑う！と非難されました」

「それでも娘の希望どおり行かせようと思ったのは、心さんの強い意志を感じられたからですか？」

「いいえ、それは息子を亡くしたからです。

息子が生きていたら、いくら娘の意志が強くても行かせていません。
まだ12才という若い年齢もですが、我が家は経済的にも厳しい。
本来、東京なんか絶対に行かせられません」

娘の望みを叶えてあげようという親心が、息子の死と関係していた……
続けてお母さんは語った。

「息子の死にあたってどれだけ涙したかわかりません。でも、きっと息子が私に伝えてくれたと今では思っています。妹の好きなようにしてあげて、と。
生きていればこそ、できる。命あればこそ、チャレンジできることを」

生きるということは、およそ2つに集約されると思います。
自分の満足する生き方を目指して、「変化」を恐れずに挑戦していくか？
それとも、「変化」による先の結果を恐れて、今に妥協するか？

心とお母さんは、家族の死を通して
変化を恐れず、後悔なく生きることの大切さを
学んだのだと思います。

「生きていればこそ、できる」

家族に生きる意味と価値を教えた戸畑の死を
私は誇りに思います。

